



ゴオゴクドオコ
 ザチザイダナニコ
 イヤイシサタノロ
 マモマイイ。モウ
 ス。ス。オ。ウ
 ワカシテ オカシガ オデサ
 テ ガ イス。イ

『泣いた赤鬼』
 浜田廣介 文 浦沢直樹 画 小学館 2011

毎日寒い日が続きますね。2月3日は「節分」ということで、
 こんな本はいかがでしょう？
 「泣いた赤鬼」のおはなしをみなさんは知っていますか？
 わたしは、小さいころ、このおはなしを母に読んでもらい、
 小さいながらとても感動したのを覚えています。
 こんなにやさしい鬼がいるんだなあ、この鬼となら友達になりたいなあと
 鬼に対する見方が変わった本でした。
 時代を超え、長年親しまれている不朽の名作「泣いた赤鬼」のおはなしを
 あの漫画家浦沢直樹さんが描いた？！

浦沢直樹さんは、映画にもなった『20世紀少年』やドイツ、チェコを舞台に
 したミステリー漫画『MONSTER』などで有名な漫画家です。
 浦沢さんは、デビューから33年間
 長期連載を途絶えることなく描き続け、これまでに描いた原稿ページは
 全部で3万ページにもなるそうです。それをすべて浦沢さんの手で
 1ページ1ページ描き続けてきたと考えると、改めて素晴らしい漫画家であり、
 日本の漫画史を継承する人なのだと実感します。

そんな浦沢さんが描き出したこの『泣いた赤鬼』
 さすがは浦沢さん！！とうなるほど、赤鬼も青鬼も
 浦沢さんらしい鬼になっていて、浦沢さんファン（わたしも含め）には
 たまらない一作です！鬼の表情がとても絶妙で
 情の深さがとてもよく描かれています。
 最後の赤鬼が泣くシーンは必見です。
 そして、漫画家ならではのページ運び、絵の配置、構図も
 また素敵でおもしろいです。

また、この絵本のプロデュースを手がけた小学館の編集者長崎尚志さんは、浦
 沢さんのデビュー当時より、ずっと浦沢さんの編集者として
 浦沢さんのそばで浦沢さんの作品に深く関わった人です。
 浦沢さんの才能を見出し、声をかけ、
 浦沢さんをデビューに導き、今日まで共に走ってきました。
 （『美術手帖』2016.02 vol.68 No.1033 美術出版社より）
 先日、芥川賞をとった又吉直樹さん（偶然にも名前が同じ！）も、
 賞をとれた影には、又吉さんの才能を見出し、
 又吉さんの作品を手がけた敏腕な女性編集者がいたと話題になりましたね。

鬼は外～な節分ですが、鬼もうち～といたくなるような
 とってもやさしくてホロリとせつない
 鬼の物語を浦沢さんの画とともに...

